

Shrouded Blossoms けふるがに咲く花

2014年2月22日

19.00時

神戸ユニオン教会



《SHROUDED BLOSSOMS—けぶるがに咲く花》

ソプラノ：立木ドナ

ハープ：野田千晶

ピアノ：脇山幹士

プログラム

F. シューベルト (1797—1828) : 楽に寄す 作品88-4 D547

H. トウルネチュック (1858—1914) : シューベルト幻想曲 作品7
(ハープ独奏)

R. シューマン (1810—1856) : リーダークライス 作品39

異郷にて
間奏曲
森の対話
静けさ
月の夜
美しき異郷
古城にて
異郷にて
悲しみ
たそがれ
森の中で
春の夜

R. シューマン : バイロン卿の詩による《3つの歌曲 作品95》

- i. イフェタの娘
- ii. 月に寄せて
- iii. 英雄に

脇山幹士 (1968—) : ソプラノ、ハープ、ピアノのための《SHROUDED BLOSSOMS—けぶるがに咲く花》

(東北大震災の被災者作の短歌による) 日本初演

今晚のコンサートは、フランツ・シューベルトのよく知られた音楽への賛歌、「楽に寄す」により始めたいと思います。

ハーピスト、ピアニスト、そして指揮者であったハンス・トゥルネチェックは、特にオペラの分野でチェコの国民主義的な音楽の普及にたゆまなく努め、スメタナの作品を支持しました。彼の初期の作品である「シューベルト幻想曲」は彼の時代に最も愛されたシューベルトの音楽の主題を思い起こさせます。したり落ちる感情のつづれ織りの中に巧みに織り込まれた、「菩提樹」「涙の賛歌」「セレナード」そして「どこへ？」に気づかれるでしょう。シューベルトの魂は「涙の中で微笑む」に違いないでしょう。

ロベルト・シューマンは彼の時代の音楽のあらゆる分野に大きく貢献をしましたが、歌曲とピアノ音楽において最もその名は思い起こされるでしょう。作曲家になる以前、シューマンはピアニスト志望でした。彼の歌曲では、ピアノの前奏、間奏、そして後奏は大変重要で、歌手とピアニストの関係は、単に独唱者と伴奏者という以上に二重奏のようであります。ヨーゼフ・アイヒェンドルフの詩による作品39のリーダークライスは、12曲よりなる連作歌曲です。

シューマンの作品95の「3つの歌曲」はジョージ・ゴードン・バイロン卿の「ヘブライの歌」のユリウス・ケルナーによるドイツ語方言訳に作曲されました。最初の曲は、イフェタ將軍の娘が、父の軍事的勝利を得るための悲劇的に見境のない神への誓いの結果として、自己の命を捧げることを受け入れるという狂信的な忠誠心を描いています。二曲目「月に寄せて」は、仰々しく表現される力に満ちた終曲「英雄に」の前の静かな間奏の役割を果たします。

プログラムの最後は、脇山幹士作曲「Shrouded Blossoms－けふるがに咲く花」の日本初演です。題名の「Shrouded Blossoms－けふるがに咲く花」は、東北の地震・津波の生存者による短歌の一節から触発されたものです。英単語のshroudは通常「死」を示唆するものですが、「覆い包む」という意味もあります。「花 (blossoms)」は再生と希望の象徴である春の前触れです。この曲の各部分は、それぞれの短歌 (9首) によって喚起された心象と感情を音楽的に表現します。一連の短歌は、地震前日の平穏な日常生活、被災者救助の段階を経て苦しみを乗り越えた中での新たなる日々にたいする安堵と復興への願いへ、という流れを形作っています。

出演者プロフィール

立木ドナ（ソプラノ）

トロント大学にて声楽を専攻、1981年に学位を取得、同大学オペラスクール研究課程にて1982年に学位を取得。1979年、カナダ人のアルト歌手であるモーリーン・フォレストアのマスタークラスに参加したことを契機に、CBCラジオに出演する。ヴィクター・フェルドブリル指揮のトロント大学管弦楽団、ノース・ヨーク・フィルハーモニック管弦楽団で独唱を務める他、トロントのギルバート・サリバン協会にて主要な役柄を演じる。日本に於いては大阪のザ・シンフォニーホールにて度々独唱者として、また神戸・東京・名古屋にてゲスト歌手として歌う。近年は神戸にて片桐えみ氏に、ローマにてマウリツィオ・コラチッキ氏に師事。2011年と2012年には、ローマ・フェスティヴァル管弦楽団といくつかのオペラの役柄を演じ、聖ヴィットリーノ大聖堂にてペルゴレージの「スタバト・マーテル」のソプラノ独唱を務め、またミラノ、チューリッヒ、タイ、ローマ、そして神戸にてリサイタルを開催する。

現在、神戸市外国語大学大学院教授（英語教育と研究）。応用言語学博士。

野田千晶（ハープ）

国立（くにたち）音楽大学器楽学科ハープ専攻を首席にて卒業。海川佳代子、田渕順子、ヨセフ・モルナルの各氏に師事。大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団などの関西主要オーケストラと協奏曲を演奏する。住友生命全国縦断チャリティーコンサート、いづみホールクリスマスコンサート、大阪市役所シティホールコンサート、高槻文化ホールオープニングコンサートなど数多くの演奏会に出演する他、様々な楽器、声楽とのジョイントコンサート、邦人作品の初演、オーケストラの客演、後進の指導と幅広く活躍。アメリカ・カリフォルニア州にてフィリス・シュロモヴィッツ女史の特別講習を受講、各地でコンサートに出演、好評を博す。第45回全国植樹祭にて御前演奏。テレビ・ラジオにも多数出演（「題名のない音楽会」「おはようパーソナリティ道上洋三です」他）宝塚ベガホールでのソロリサイタルは「艶と生気にあふれた力強い前進（関西音楽新聞）」と絶賛された。宝塚市のギャラリーで定期的に開催しているコンサートシリーズが宝塚ブランドとして選定される。

現在、日本ハープ協会役員。平成音楽大学講師。

脇山幹士（作曲／ピアノ）

大阪音楽大学作曲専攻卒業、同大学院修士課程修了。数々の演奏会で新作を発表すると共に、アンサンブルピアニストとして内外で多くの舞台に立つ。萩原朔太郎の詩（英訳）による朗読とピアノのための「3つの詩的夜想曲」はオランダ、米国にて高評を博し、メゾ・ソプラノ、フルート、チェロ、ピアノのための「春宵」は関西音楽新聞と音楽の友により賛辞を得る。また2台のピアノのための「ファンシー」はNHK名曲リサイタルにより放送される。作曲、演奏活動の他、編曲法や楽曲分析の講座を各地で行う。

現在、大阪音楽大学、同志社女子大学、梅花女子大学、ヤマハなんばセンターなどで、ソルフェージュ、和声法、作曲法、編曲法などの講座を担当、日本作曲家協議会、日本演奏連盟各会員、ヤマハ音楽能力検定ハイグレード試験官。